

新潟市暮らしの点検・評価アドバイザー会議におけるご意見への対応等

事業名：新潟地域若者サポートステーション事業

No.	ご意見	対応等
1	<p>説明を聞き、各関係機関と連携を取りながら手を打っていることがわかった。相談したり登録したりする以前の、入口までの誘導が難しいと思うので、せっかくの事業を広く伝えるための工夫が必要。</p> <p>小学校や中学校でキャリア教育に力を入れているので、今後は良い方向に向かうかもしれないが、キャリア教育は重要であり、それらとの連携も大切だと思う。</p> <p>若者の多くは、紙媒体は見ないし、ごみになるので手に取らないと思う。</p> <p>情報にアクセスしてもらうには、SNSなどの活用が欠かせない。</p>	<p>ホームページやブログ等を活用して、情報発信を行っており、メールでの問い合わせや簡易な相談には応じています。</p> <p>また、にいがた若者自立応援ネットを活用して、学校連携のアウトリーチとして中学校・高校への講話等を行うことは可能な範囲と考えております。</p> <p>にいがた若者自立応援ネットの連携機関をはじめ、庁内外の関係機関と連携を図りながら、多くの方々に知っていただけるよう、工夫に努めます。</p>
2	<p>支援対象が15～39歳と幅広い。年齢などもう少し細かく分析し、打つべきところに効果的に経費を使うべき。高校生に情報提供する、企業の経営者の集まりで情報提供する、なども考えられる。</p> <p>また、離職の理由などについても、調査する必要があるのではないか。</p> <p>若い人に発信したいなら特に時代の変化に対応する必要がある。10年目を迎えるので、数値などを分析し、これからの10年の方向性を検証する時期だと思う。</p>	<p>10年間の経験を踏まえ、様々な数値（サポステを知ったきっかけ、効果的な支援プログラムの検証など）をまとめ、今後の方向性について検討します。</p>

3	<p>近くにあると良いと思うので、区ごとで展開できないか。</p> <p>保護者や本人への出張相談を、常時は無理でも、試験的に実施してはどうか。</p> <p>区で活動している人やNPOなど民間と連携するなど、地域活動の中でも取り組んでもらう仕掛けができると良い。</p>	<p>現在、秋葉区のハローワーク新津、西蒲区のハローワーク巻で月に1～2回程度、出張相談を行っております。今後、他の区で出張相談を実施できるか、今後の方向性について検討します。</p>
4	<p>就業支援やいろいろな窓口を1カ所に集約できると、動きにくい人には良いのではないか。</p>	<p>新潟市若者支援センター「オール」が窓口となり、これからの支援内容を提案し、サポステなどの若者の課題に沿った適切な各支援機関へ紹介し、社会的・職業的自立へ繋いでいます。</p>
5	<p>ニートが主人公になれる自立支援の構築が必要。ニートのコミュニティを作ってあげられると良いのではないか。例えば、ニートの成功者が発信し、それをフォローしてもらうような取り組みである。</p>	<p>職業人講話として、サポステ卒業者がサポステ利用中の方々へ体験を話してもらっています。対人関係が苦手な方が多いので、コミュニティ作りは自発的には難しいと考えております。</p>

■その他参考意見

- ・高校の先生、特に20代の先生は、仕事が多くて子ども達への指導がおろそかになり悩んでいる話を聞く。40代～50代の先生と比べた時の、このアンバランスは問題だと思う。
- ・ネーミングの工夫をした方が良い。ひきこもっている人が「ひきセン」には行きにくい。「若者サポートステーション」も上から目線に感じられる。